



出土した黄金製品 騎馬民族らしく足首にも飾りをつけていたようだ

段ボール詰めのままになった膨大な出土品。研究資料としての分類整理に着手。

中国、新疆ウイグル自治区にあるトルファン地区。かつてはシルクロードの要衝として栄えたこのあたりには、数多くの遺跡がある。早稲田大学のシルクロード調査隊は1991年からその調査に当たっているが、1994年からはトルファン交河故城西の溝西墓の発掘に取りかかった。

めったに出土しない黄金製品を多数発見!

トルファンはシルクロードの一つである天山南路に沿う交通の要衝で、さまざまな民族文化が栄え、国家が台頭した。古くは紀元前2~3世紀から交河故城を中心にして車師前国が栄え、前漢の武帝が前103年に遠征して高昌壁を築いている。

その一角に溝西墓がある。ここには約1500基もの墳墓があるのだが、早稲田大学のシルクロード調査隊が実際に発掘を始めると、多くの墓で盗掘が進んでいたという。



五銖銭と呼ばれるコインと銅鏡。中国では3000年前から貨幣が流通していた

このため当初、発掘は空振り続きだった。それでも調査隊は発掘を続けた。

言葉でいうと簡単だが、発掘の手続きから始まり、相当な労力が必要になる。中国の中央政府の許可をとり、さらに省政府の許可をとって初めて実現する。現地まではラクダを使い、多いときは50頭ほどのキャラバン隊となる。トルファンは盆地にあるため、昔から「火の州」とよばれた程の灼熱の地である。手間も時間も想像以上だ。

しかし、掘り続けること3年目。盛り上がりのない車師時代の墓を発掘したところ、ついにトルコ石製のブローチ、黄金製の指輪、黄金製の首輪、頭髪飾り、黄金製バックル、黄金製足飾りなどが次々に出土したのだ。

調査隊を指揮した早稲田大学 名誉教授の長澤和俊さんは



発掘地域へ向かうキャラバン隊の列



台地の上に数百の墓が点在している

「このあたりは共同墓地ですが、これほど見事な黄金製品が出土するのは稀です。黄金製品が見つかるたびに我々も歓声をあげました。遊牧民の族長のものだと思いますが、よほど権力をもった人だったのでしょう」と説明する。

これらの黄金製品は東京国立博物館で展示されたこともあるので、ご覧になった方もいるだろう。現在は、北京やウルムチなど中国の博物館で保管されている。中国にとっても北京原人以来の大発見だったのだ。

シルクロードには手つかずの遺跡が無数に存在している。

溝西墓からはコインや銅鏡、土器なども数多く発見された。

「きらびやかな黄金製品はきちんと保管されているのですが、何万点も出土した土器などや地味な出土品は段ボールの箱にいれたままという状態でした」(長澤 名誉教授)

担当者より



助成金は大切に使用させていただいております。

早稲田大学 名誉教授
長澤和俊さん

文部科学省の研究費というのは枠もあり、なかなか希望通りにいきません。今回のご助成費用は、私たちも、また中国の仲間たちも大切に使用させていただいて、大きな成果に結びつけたいと考えております。ありがとうございました。

このままでは、考古学的な資料が散逸してしまう。そう考えた長澤さんは共同で調査を行っている中国の新疆文物考古研究所とともに、資料の整理をすることにした。出土の状況や、日付などの目録をつくり、分類をしていくのだ。それによって後世の研究者たちが利用できる資料となるのである。いずれは墓の大きさや、深さ、地域などの項目で検索すれば、出土品が一覧できるようなデータベースができあがるかもしれない。

「調査や研究というのは地味な部分がほとんどで、たまに余録として脚光を浴びるようなこともあるわけですが。研究としてはこれからが本番です」という話だった。

溝西墓にはまだ未発掘の墓が残っている。あと5年くらいは発掘を続けたいというのが長澤さんの見解だ。実は溝西墓の周囲にはまったく手つかずの遺跡もある。周囲は全て砂漠なので、盗掘されていないければ、保存状態は悪くないだろうと考えられている。さすがにシルクロードは考古学研究対象の宝庫である。

「エジプトは出土品も派手ですから、そちらに目がいくことが多いと思いますが、日本への影響という点ではシルクロードの方が大きいでしょう。今回の発掘調査などをまとめていくことで、次の世代がシルクロードにもっと興味を抱いてくれることを期待しています」

シルクロード調査隊の新たな報告を待ちたい。